

生連協だより vol.100

発行 〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16 会長校：二松学舎大学 TEL：03-3261-7406（代表）

編集担当 明星大学・国際武道大学・杏林大学 印刷 株式会社 エムディーエス



関東地区学生生活連絡協議会新会長あいさつ ～〈根っこ〉にこだわる覚悟と自負～

二松学舎大学 学務局長 瀧田 浩

→ 松学舎大学で学務局長を務める瀧田浩です。本年度は本
→ 学が関東地区学生生活連絡協議会の会長校となり、私が
会長を務めさせていただくこととなりました。この場をお借りし
て、ひとことご挨拶を申し上げます。

〈根っこ〉へのこだわりと〈森〉のひろがり

1965年の発足以来50年以上の歴史をもつ本協議会は、「会員校
間との連絡協議を通じて、学生個々人の素質や個性に即し、より
豊かな学生生活を送ることができるよう支援することを目的」（協
議会規約第2条「目的」より）としております。高度な研究と教育を
おこなうための大学という場の中で、学生の生活を支援すること
を目的に結成されたわけで、本協議会の独自性と重要性が見えて
きます。

「radical」という単語は「根本的な」という意味と「徹底的な」とい
う意味をもっていますが、本協議会は大学教育をradicalな部分で
支えていると考えられます。学生支援は「根本的」な重要性をもつ
にとどまらず、ひとりひとりの大学生を大きく成長・変化させる
力を潜在的にもっている点において「徹底的」な側面ももっている
ように思えます。個々の大学がまずはしっかりと根を張り、80近
くにものぼる加盟大学の根っこが重なり合い、つながり、支え合っ
てひとつの森ようになる。50年以上の努力と連携により、本協
議会は学生が憩う森の機能をもつに至ったように思います。この
ような場の継承が加盟大学のみなさまのご協力なしにはできません。
副会長校の東京都市大学・桜美林大学のみなさま
をはじめ、加盟大学のみなさまのご支援により、二松学舎大学は
1年間の任期を全うしたいと考えておりますので、どうぞよろし
くお願いいたします。

今こそ求められる複眼的視点と温故知新の考え

漢学塾二松学舎を始めた三島中洲は「東洋の精神による人格の
陶冶」と「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」とい
う言葉を残しています。西洋化が圧倒的な勢いで進む中で、二松
学舎は「東洋」に「人格」に着目し、みずからを律し自立を果たした上
で社会に貢献しようとする人物の育成をめざしてきました。ここ
にあるのは、西洋をモデルにした近代社会を形成する際に東洋的
な修養の思想も忘れてはいけないという複眼的な視点、温故知新
の考え方です。グローバルスタンダードにしたがって生きてゆか
ざるを得ない現代においては、このような複眼的な視点や温故知

新の考え方はより重要性を増しているでしょう。時代に流されず、
全人的に、学生の人間性を深く涵養していこうとする志向が、二
松学舎大学の建学の理念には強く刻まれています。

不器用な希望に寄り添って

最後に、私の専門である文学の視点もまじえて考えてみたいと
思います。最近出版された歌集『コンビニに生まれかわってしまっ
ても』（書肆侃侃房）から短歌を1首引用します。

こしあんパンほどに優しいひとだから
かばんの底でつぶれてしまう

1990年生まれの西村曜（にしむらあきら）氏は、現代の若者に特
徴的な優しく繊細な感性、社会や他者にたいする恐れや不安を
みごとに形象化します。氏の手にかかると、内向的な負のモチー
フも不思議な美しさをもって輝きだすので驚きます。私たち教職
員は学生にたいして、学生のためを思い、「自己の殻に閉じ籠も
らず、早く社会に向かって出て行きなさい」と言いがちですが、
この歌集を読んでいると若者をあまり急かしたくないという気持
ちが湧いてきます。大学が重要なのは社会に出るための学びをす
る場であるからだけではなく、社会のことを忘れて熱中したり悩
んだりする場でもあるという、当たり前の事実に気づかされます。
西村氏の短歌をもう1首引用します。

願いとはそれでもきみがあきらめず
折ったつばさのよれている鶴

ここには、不器用ながらもなんとか継続していこうとする者の
本音に滲む希望があります。刻々と変化する現代の情報化社会を
生きる学生の支援は、不透明で困難な営為にならざるを得ません。
学生がどう変化・成長するのかわからないまま、いつ終わるとも
知れない支援を継続することも多く、支援が成功したという実感
を手にするのも少ないと思います。しかし、高度情報化社会を
環境とする今の大学生が、手に入れた情報をもとに真剣に生きよ
うとしているのは事実です。社会が、学校が大きく転換しようと
する現在、私たちはつねに人間としての根っこを見つめて、学生
と向かい合うことが求められているのではないのでしょうか。みな
さまと知恵を出し合って、学生を支援する努力を重ねていきたく
と思います。どうぞご協力をお願いいたします。

第54回

通常総会開催

2019. 5. 31 fri

二松学舎大学九段キャンパス中洲記念講堂

令和元年度 三役校決定! >>>

会長校 二松学舎大学

副会長校 東京都市大学・桜美林大学

令和元年5月31日(金)、二松学舎大学九段キャンパス中洲記念講堂において、第54回通常総会並びに令和元年度第1回(通算121回)講演会を開催した。

会場となった二松学舎大学学長 江藤 茂博氏並びに、会長校二松学舎大学学務局長 瀧田 浩氏の挨拶の後、議長に東京都市大学 河合 大氏、書記に神奈川工科大学 鈴木 隆氏と神奈川大学 高橋 厚氏が選出された。

議事に先立ち、関東地区学生生活連絡協議会規約第12条7項に記載されている通り、総会には会員の3分の2以上の出席(委任状を含む)が必要であるが、本会には出席38大学、委任状16大学、合計54大学により、会員総数78大学に対して3分の2を満たしていることから、総会が成立している旨、説明が添えられた。

第1号議案 平成30年度事業報告について

会長校桜美林大学学生部部長 和田 満氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第2号議案 平成30年度決算報告について(※会計監査報告)

副会長校東洋大学学生部学生支援課課長 前田 孝氏より、原案について資料の通り説明があり、続いて拓殖大学学生生活部八王子学生生活課審議役 中洞 三雄氏、山梨学院大学学生センター課長 酒井 久治氏より会計監査報告がなされた。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第3号議案 令和元年度役員校並びに顧問の選出(案)について

副会長校二松学舎大学教務課副部長 小西 明德氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第4号議案 令和元年度事業計画(案)について

新会長校二松学舎大学教務課副部長 小西 明德氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第5号議案 令和元年度予算(案)について

新会長校二松学舎大学教務課副部長 小西 明德氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第6号議案 規約の変更について

新会長校二松学舎大学教務課副部長 小西 明德氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

以上、議事は滞りなく進行し、無事終了した。

議事終了後、令和元年度常任委員並びに役割分担の紹介がなされた。引き続き、新会長校二松学舎大学 瀧田 浩氏より、新任挨拶がなされた。

総会閉会后、休憩を挟み、同教室にて令和元年度第1回講演会を開催した。講師に二松学舎大学学生相談室 奥野 光氏をお招きし、「学生の人生にかかわる～レジリエンスの視点から」について講演して頂いた。

講演会終了後、会場を1号館13階ラウンジに移し、情報交換会を行った。新会長校二松学舎大学学務局長 瀧田 浩氏の挨拶後、桜美林大学学務部部長 和田 満氏より乾杯があり、以後親睦が深められた。東京都市大学学生支援部部長 住田 暁弘氏の挨拶後、閉会した。



講演会 Report

第1回 講演会レポート (通算121回)

▶ 講師 二松学舎大学学生相談室 奥野 光氏

▶ テーマ 「学生の人生にかかわる～レジリエンスの視点から」

二松学舎大学において『学生の人生にかかわる～レジリエンスの視点から』と題し、同大学の学生相談室で臨床心理士としてカウンセリングを担当されている奥野光氏による講演が1時間行われた。

無力感に襲われるという理由で欠席しがちになり、年度末に成績不振で指導を受ける事になった学生の話为例にレジリエンス=回復力や折れない心などの概念について、研究テーマなどを例に語っていただいた。また、学生の身近にいる家族以外の頼れる大人の存在として、逆境に対処していくためにレジリエンスを促進する事で助けになるものを見つけられるよう学生を導いていく。尚且つ自分自身の成長につなげて、よりよい環境を作っていく事の大切さを解説していただき、現場での立場を改めて認識させられる講演となった。



2019年度の新たな取り組み紹介

杏林大学

「学長と学生の懇談会」、「市と連携したサイクルシェア」

杏林大学学生支援課では新たに2つの取り組みを行い、学生生活の環境改善に努めています。

1 学長と学生の懇談会

昼食を取りながら学長と学生がざっくばらんに話せる機会を設けました。学生たちにとっては自身の悩みや大学への要望などを



▲学長と学生の懇談会

学長に直接相談できる良い機会となりました。教職員にとっても学生の意見を学修環境の改善に役立てることができます。

2 市と連携したサイクルシェア

三鷹市と連携しサイクルシェア制度を本格稼働しました。利用料を払うと共有自転車でJR三鷹駅と大学を往来できます。同じ自転車を異なる時間帯で市民や学生が共有する形になるため、



◀学内に駐輪されたサイクルシェア

自転車や駐輪場が効率的に利用され、放置自転車や環境問題の改善が期待できます。学生にとっても、自転車を所有せず人気の高い駅前駐輪場を利用できるメリットがあります。今後も本学では市と連携し、街と大学が相互に活性化するような取り組みを模索していきます。

国際武道大学

オヤジ・オフクロセミナー「オヤからの熱い思いを」

国際武道大学学生支援センターでは、学生生活全般の学生課と就職・キャリアに関わる就職課に加え、後援会及び同窓会の支援を執り行う等幅広い業務を担っています。

今回は、就職を含めて学生生活全般の総合的な学びの場として「オヤジ・オフクロセミナー」を紹介致します。このセミナーは、後援会のご協力を得て学生のお父さま・お母さま方に講師を担当していただいています。内容は、オヤジ・オフクロの学生時代から現在に至るまでの様々な経験や生き様、また「親から子への熱いメッセージ」が込められ、学生達は学生生活を振り返り、「人生を生き抜くすべ生きる力」を育むための貴重なプログラムとなっています。



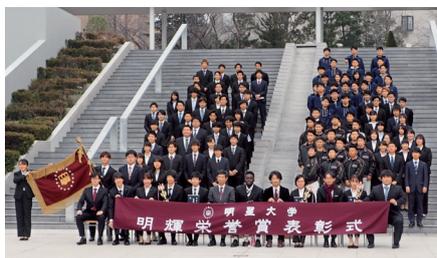
▲オヤジ・オフクロのセミナーの様子

明星大学

学生の活動を積極的に表彰する「明輝栄誉賞」を実施

明星大学 学生サポートセンターでは、奨学金、課外活動を中心とした、学生支援全般の業務を行っております。

今回は、「明輝栄誉賞」をご紹介します。本学では、年に1度、在学する学生が、個人・団体に関わらず、課外活動を熱心に行っ



▲明輝栄誉賞表彰式の様子1

ている努力に対して、何らかの褒賞によってその努力を称え、後に続く学生の励みとなしてほしいとの気持ちをこめ、「明輝

栄誉賞」を実施しております。

昨年度は関東大学男子バスケットボールリーグにおいてリバウンド王を獲得した学生や、熱心にボランティア活動を行った団体など、78名を表彰いたしました。

このほか、学生の活躍をタイムリーに広報できるよう、連携する仕組みづくりを行い、課外活動活性化に努めています。

※明輝栄誉賞は、以前から取り組んでおりましたが、ご紹介する機会がなかったため、今回取り上げさせていただきます。

▼明輝栄誉賞表彰式の様子2





平成30年度関東学生生活連絡協議会の会長校を終えて ～学生生活の支援のための本協会の重要性と今後の発展を祈念して～

桜美林大学 副学長 長田 久雄

桜美林大学は平成30年6月から1年間、本協会の会長校を務めさせて頂きました。会長校をお引き受け致しました時、私は副学長に任じられた直後であり、本協会の活動を充分理解していないままに活動に参加させて頂きました。戸惑いもございましたが、副会長校、常任委員校の関係者をはじめ会員校の皆様にご支援とご協力を頂きまして、大きな問題も無く職責を果たすことができましたことに心より御礼申し上げます。

参加させて頂いた研修会、講演会、役員会は、私にとりましては大変印象深いものばかりでした。とくに、9月の夏期合同研修会・情報交換会に参加させて頂き、役員校、会員校の皆様の熱気のある活発な討議や情報交換を目の当たりにして、本協会の重要性を認識することができました。この研修会には、38大学69名の参加を頂きましたが、これ以外にも、学生生活支援に関連する様々な課題に関する講演会、それを企画運営するための役員の皆様による準備会などに多くの方のご参加を頂き、きめ細かく質の高い学生生活の支援が行われていることを実感することもできました。ご多忙な校務の中、企画、運営、参加をしてくださっている会員校の皆様には敬意を表します。



▲平成30年度研修会の様子

大学の中心が学生であることは言うまでも無いことです。今後も留学生や障がいをもつ学生など、多様な学生を受け入れ支援する機会が増えることと思います。これに従って学生生活支援には、時代の変化とともに、新たに様々な課題が出現することと推察されます。各大学が孤立して解決策を模索するのではなく、本協議会が大学の垣根を越えて連携



▲研修会での会長挨拶

し、より良い学生生活支援を目指す貴重な場となることには、大きな価値があります。

本協会は、昭和40年以来50年間以上に亘って活動を続けてきたと伺っております。このように継続できたことも、本協会が実質的な成果をあげてきたからだと思えます。今後とも、私どもも本協会の活動に協力を惜しまない所存でございますので、本年度の会長校をお引き受けくださいました二松学舎大学様には、大変お世話になりますが、何卒宜しく願い申し上げます。これまでのご支援ご協力を改めまして御礼を申し上げます。これまでのご挨拶とさせていただきます。



「留学生担当者研修会」報告

昨年度に引き続き、関東地区学生生活連絡協議会が主催する(千葉県私立大学学生支援研究協議会・神奈川県学生生活協議会連携)取次申請者資格取得研修を含む留学生担当者研修会を、次のとおり開催いたしました。

研修会においては、法務省から3名を講師としてお招きし、取次申請に関する事項及び最近の留学生の出入国・在留審査状況について、情報を提供していただきました。

留学生担当者 研修会の開催

- ▶日時 令和元年7月12日(金) 13:00～17:00
- ▶場所 国土館大学 世田谷キャンパス 34号館2階 34B 204教室

内容:

「出入国管理行政の概要について」

東京出入国在留管理局 就労審査第一部門 統括審査官

山本 聡子 氏

「出入国審査・在留審査業務について」

東京出入国在留管理局 留学審査部門 統括審査官

村口 久幸 氏

「申請取次制度について」

東京出入国在留管理局 留学審査部門 統括審査官

谷 佳子 氏

